

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.126
2025. May

発行者 琉球病院事務部長
池間 忍

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「新任の先生方のご紹介 1」

下門先生

この度、4月から琉球病院に戻ってまいりました。下門と申します。2023年度に1年間お世話になっていたこの病院に再度戻れてとてもうれしく思っております。未熟な点も多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願ひいたします。

西平先生

4月から赴任しました、西平 賀政よしまさと申します。2006年琉球大学卒業し、キャリアの多くを総合病院で過ごしてきました。英語での診療に興味があります。多くの役割を拝命しましたが、まずは地に足をつけ、職員はじめ、患者様の信頼を獲得できるように努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大坪先生

今年度より琉球病院で勤務することになりました大坪駿介と申します。福岡出身で、趣味はテニスです。沖縄の美しい風景と温かい人柄が昔から大好きで、この地で働けることを嬉しく思っています。患者さんに寄り添った医療を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願ひいたします。

地域医療連携室だより

精神保健福祉士 伊波 勤子

琉球病院には沖縄県唯一の「動く重症心身障がい病棟」があります。強度行動障害という著しい行動障害（興奮、他害、自傷、徘徊、自閉的傾向、異食）のため、家庭での生活が困難な重度精神発達障がい児・者の入院のご相談に対応し、入院治療をお受けしています。これまで行動障害が著明なために、一般精神科病棟で入院の際に長期に保護室を使用せざるを得ないような方々も、専門の病棟で関わる事で穏やかな生活が送れるようになることを目指しています。入院をご希望の際はお気軽に「地域医療連携室」へお問い合わせ下さい。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停
下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖繩自動車道金武
インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ436例になりました。2025年3月のCLZ登録症例は1例で、他の精神科病院に入院中の患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.dr-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

看護部

看護部長 養田 尚美

令和7年度となり、琉球病院看護部では21名の新しい看護職員を迎え入れました。看護部では「この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である」の病院理念のもと、「看護職員一人ひとりが相互に尊重し合い、倫理を基本とした責任ある看護の提供」をスローガンに掲げました。今年度も看護職員一丸となり、患者さん・ご家族の人権を尊重し、安全・安楽・安寧の得られる質の高い看護の提供を目指してまいります。精神科医療において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」が示されている中、令和7年度の看護部の新しい取組みとしまして、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の看護師特定行為研修修了者が訪問診療に参画する予定です。訪問診療において看護師特定行為研修修了者が看護師としての強みを活かしチームの一員としてリーダーシップを発揮し、地域に向けた活動が展開していくことを期待しております。

東I病棟

東I病棟師長 湧川 傑

当病棟は、平成31年4月から精神科急性期病棟 (スーパー救急病棟) として運営しています。入院患者は精神科急性期特有の陽性症状や著明な陰性症状を呈しているため、リスク管理を中心とした精神科治療が優先され、時に患者さんの安全を守るために治療上の指示に基づいた行動制限やセルフケア援助を中心とした手厚いケアを必要とします。また、3ヵ月以内での退院を目指し日々、精神症状や人格特性への理解、観察力や状況判断、リスクアセスメント能力、コミュニケーション能力等、多職種と連携し医療を提供することが求められます。

当病棟の使命は、病院理念「この病院で最も大切な人は医療を受ける人である。」とあるように患者さんに寄り添い、早期から効果的な治療を提供することで、精神症状からの回復を支援し、社会復帰を促進していくことです。これからも患者さんに寄り添い、多くの患者さんの回復を支援していきます。

こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では、県から委託を受けて実施している「子どもの心の診療ネットワーク事業」の人材育成の取り組みとして、県内の医療従事者を対象とした実地研修の受け入れを行っており、診療陪席や研修等を通して、こども心療科で行っている診療の実際やノウハウをお伝えしています。これまでも医師だけでなく、看護師や精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士/公認心理師など、多くの職種の方々の参加がありました。このように様々な職種や立場の方からの意見や視点をいただけることは、私どもにとっても日頃の臨床の在り方を振り返ったり、他院のお話をうかがえることで学びにつながっています。今後もこのような支援者同士のつながりが県内に広がっていけばと願っています。

D PAT 活動報告

主任心理療法士 前上里 泰史

【広域災害・救急医療情報システム (EMIS) が変わりました】

広域災害・救急医療情報システム (EMIS) は、被災した都道府県を超えて災害時に医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としたシステムです。病院などの医療機関は、災害が生じると、自病院の状況 (インフラ、稼働病床、被災状況等) を EMIS に入力します。国や都道府県は支援ニーズを把握し、DMAT、D PAT 等はそれらの情報を確認するとともに支援活動中の情報を共有することで迅速な支援に役立ててきました。平成8年から運用が開始されたこのシステムが、令和7年4月よりシステムが変更され、本格運用が始まっております。サイト画面が一新し、アカウントやログインURLなどが変更となっているほか、チャットでのコミュニケーションができたり、見やすいデザインで画像をアップロードできるなど以前より使いやすい構成となっております。また平時からサイト使用の訓練ができるよう、訓練用サイトが別で使用できます。当院の日本D PAT 隊員も本システムに早く馴染み、発災時速やかに対応できるよう訓練を重ねていきたいと思っております。